

こども食堂から考える

指針の方向性

東京大学特任教授

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

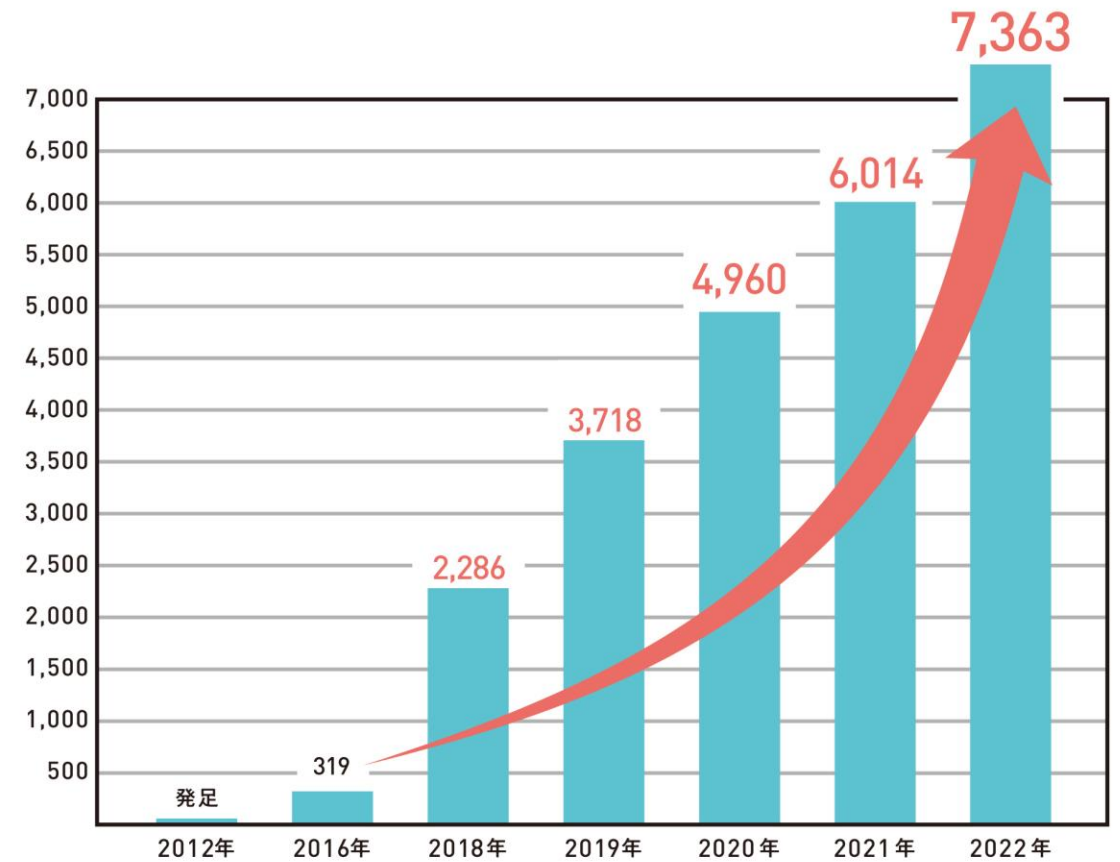
理事長 湯浅誠

こども食堂とは

○子どもを真ん中に置いた多世代交流の地域の居場所



○2022年時点で全国に7,363箇所（前年比1,349箇所増）



2018年以降は認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、および地域ネットワーク団体調べ、2016年は朝日新聞調べ

こども食堂とは



参加に条件がない——**78.4%**

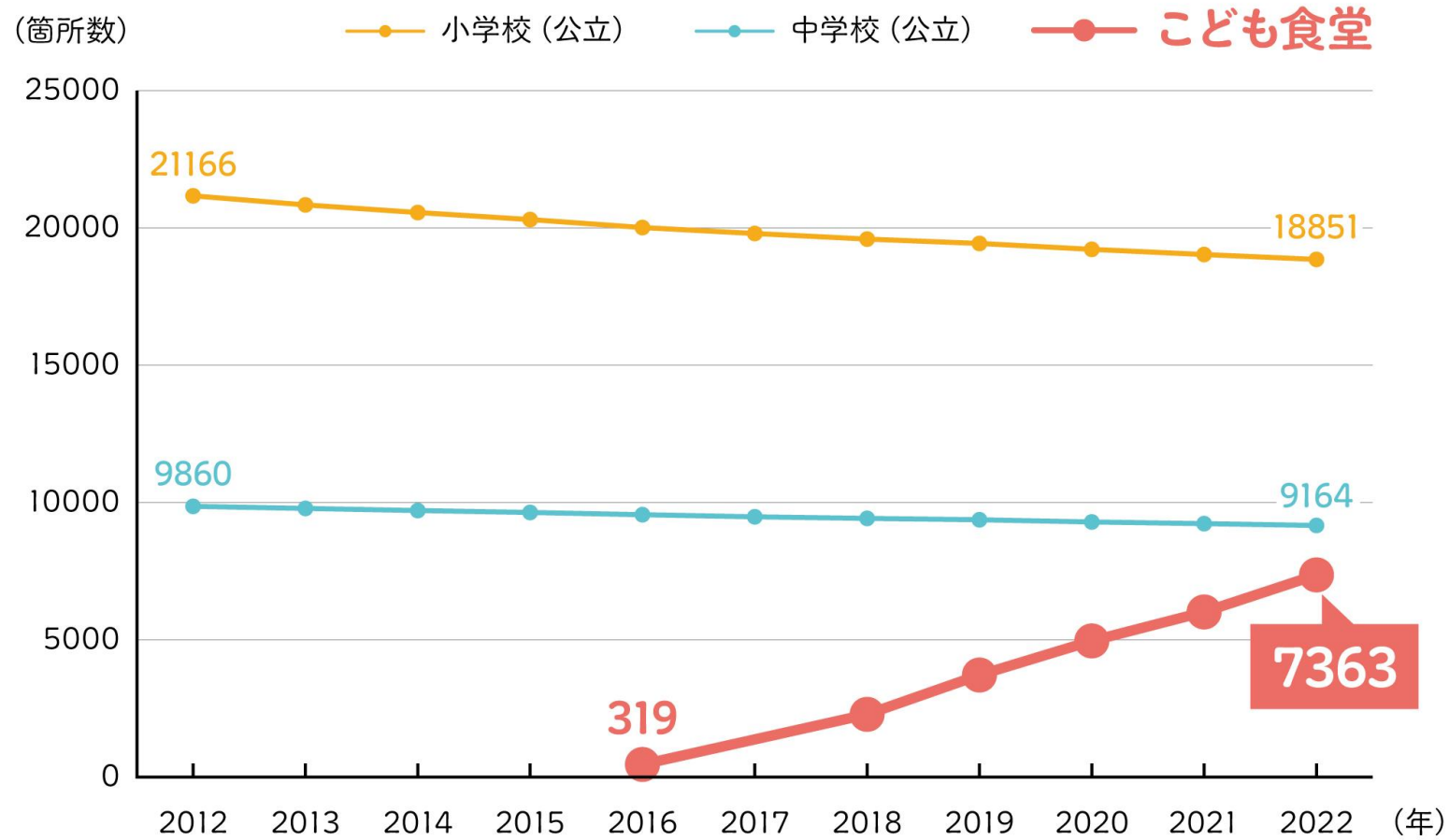
高齢者も参加——**62.7%**

子ども専用——**4%**

生活困窮者限定——**5%**

多世代交流が主たる目的（MA）——**57.8%**

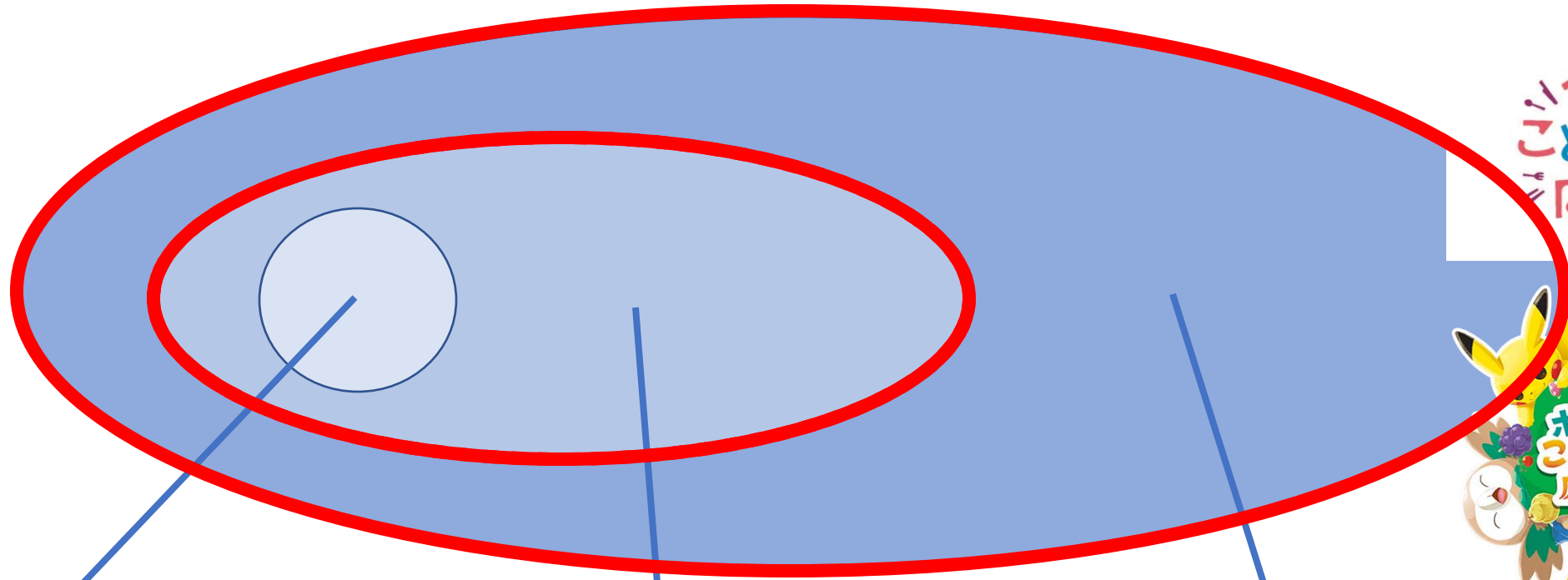
もっとも身近なところにある居場所に



子どもを介してみんながつながる地域に



NPO法人かごしまこども食堂支援センター・たくして提供



イオン
子ども食堂
応援団



子どもの貧困対策

- ・つながりの貧困
- ・体験の貧困
- ・予防としての地域づくり

子育て支援

- ・親がほっとできる
- ・ママ友ができる
- ・子育てしやすい地域づくり
- ・虐待予防

地域づくり

- ・地域ににぎわいを
- ・無縁にあらがうつながり
- ・高齢者等の活躍の場
- ・誰も取り残さない地域づくり



2021年7月2日
イオン株式会社

～ より豊かで幸せな未来をすべての子どもたちに ～ 「全国子ども食堂応援募金」実施のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、経済的に困難な状況に置かれた子育て世帯において、子どもたちの食の確保が恒常的に重大な課題となっていることを受け、イオンは、2020年12月にNPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ※（以下：むすびえ）と「イオン 子ども食堂応援団」を立ち上げました。

このたび、本プロジェクト活動の一環として7月3日（土）から8月1日（日）までの間、全国に店舗網を持つイオンの事業特性を活かし、グループをあげての募金活動を実施します。お寄せいただいた募金はむすびえを通じて、子ども食堂の運営に必要な資金や支援が必要な家庭に食品を届ける活動などを応援するために役立てていただきます。

イオンは、地域の皆さまとともに、すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長できる未来をつくりたいと考えています。この活動を通じて、人と人が支え合う、共助の絆で結ばれる活気と喜びにあふれる地域コミュニティづくりに取り組んでまいります。

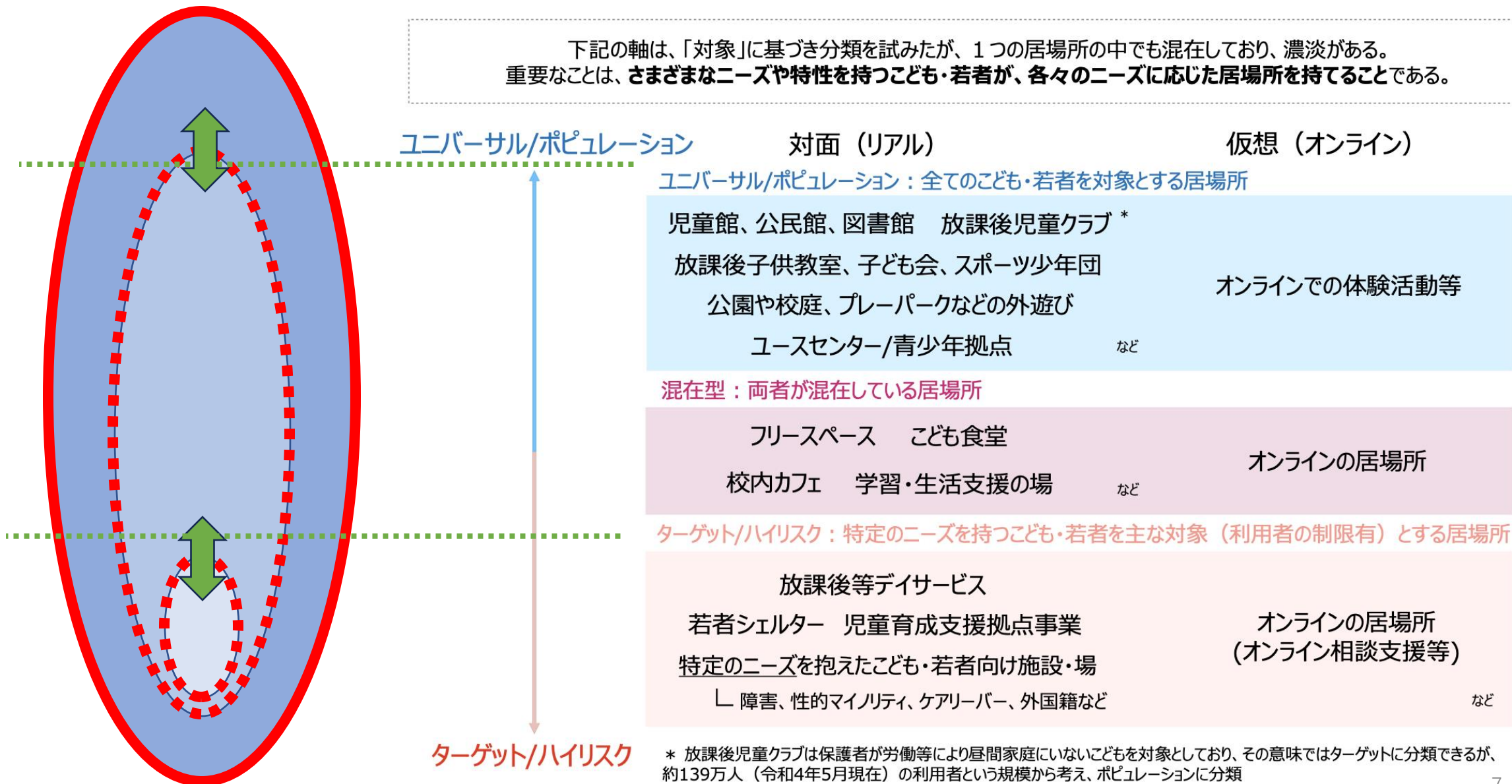
※現在は「認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ」です。



居場所の現状と課題、及び提言

- 居場所の種類（分類） -

下記の軸は、「対象」に基づき分類を試みたが、1つの居場所の中でも混在しており、濃淡がある。
重要なことは、**さまざまなニーズや特性を持つ子ども・若者が、各々のニーズに応じた居場所を持てること**である。



* 放課後児童クラブは保護者が労働等により昼間家庭にいない子どもを対象としており、その意味ではターゲットに分類できるが、約139万人（令和4年5月現在）の利用者という規模から考え、ポピュレーションに分類

指針の方向性 その1 どこもとどこか

より多くの子に
よりたくさん居場所を

+

どんな子にも
少なくとも一つの居場所を

家庭も学校も、地域も公園も
友だちの家も駄菓子屋も、
図書館もコンビニも、
児童館も放課後子供教室も、
プレイパークもこども食堂も…

AもBもCも…「どこも」
成育局の夢

家庭や学校がダメなら第三の居場所、
リアルがダメならオンライン、
出られないなら訪問、
どこもなければどこか創る…

AがダメならB…「どこか」
支援局の夢

みんな（多世代）の中に
こどももいる

元気な地域が
こどもの育ちを支える

こどもの育ちを
みんな（多世代）で応援

こどもの育ちが
地域の未来を創る